

# 昭和30年代における庶民の庭の植物利用 —東京都台東区谷中の事例—

高野 哲司

総合研究大学院大学 文化科学研究科 地域文化学専攻

1. はじめに
2. 各世帯の暮らし
  - 2.1 Aの暮らし
    - 2.1.1 Aとその家族の紹介
    - 2.1.2 A宅の庭の概観
  - 2.2 Bの暮らし
    - 2.2.1 Bとその家族の紹介
    - 2.2.2 B宅の庭の概観
  - 2.3 Cの暮らし
    - 2.3.1 Cとその家族の紹介
    - 2.3.2 C宅の庭の概観
3. 庭の植物にまつわる家族との思い出
  - 3.1 A宅における庭の植物にまつわる家族との思い出
    - 3.1.1 ハラン *Aspidistra elatior*
    - 3.1.2 アオキ (園芸品種) *Aucuba* cv.
    - 3.1.3 ミツマタ *Edgeworthia chrysantha*
    - 3.1.4 ヤツデ *Fatsia japonica*
    - 3.1.5 シュロ *Trachycarpus fortunei*
    - 3.1.6 フジ *Wisteria floribunda*
  - 3.2 B宅における庭の植物にまつわる家族との思い出
    - 3.2.1 ミズヒキ *Antenoron filiforme*
    - 3.2.2 ツバキ (園芸品種) *Camellia* sp.
    - 3.2.3 ボケ *Chaenomeles* cv.
    - 3.2.4 ジンチョウゲ *Daphne odora*
    - 3.2.5 キショウブ *Iris pseudoacorus*
    - 3.2.6 ロウバイ *Meratia praecox*
    - 3.2.7 オシロイバナ *Mirabilis jalapa*
    - 3.2.8 ムラサキカタバミ *Oxalis martiana*
    - 3.2.9 アサガオ *Pharbitis nil*
    - 3.2.10 ライラック (白花) *Sylinga vulgaris*
  - 3.3 C宅における庭の植物にまつわる家族との思い出
    - 3.3.1 ビワ *Eriobotrya japonica*
    - 3.3.2 サルスベリ *Lagerstoroemia indica*
    - 3.3.3 キンモクセイ *Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*
    - 3.3.4 ザクロ *Punica granatum*
4. 庭の植物管理
  - 4.1 A宅における庭の植物管理
  - 4.2 B宅における庭の植物管理
  - 4.3 C宅における庭の植物管理
5. まとめ

## 1. はじめに

日本における都市住民と植物との関わりに関する研究には、岡山県における都市住民の園芸植物の好みとその地域性について論じた報告(小松ほか 2003)、屋敷林における植物の種類および屋敷林の植物利用について木本植物を中心に民俗学的に論じた報告(野本 2006)、花見と桜について歴史学の視点から論じた報告(白幡 2000)、大阪府における公園管理と花見について論じた報告(増野 2013)、緑被空間からみた居住環境の安定化に関する報告(田畑ほか 1983)、京都の町屋における前栽と坪庭の実態に関する報告(下村ほか 2005)などがある。

都市に生活する多くの人びとは自宅に、庭をつくって植物を植えている(橋 2013)。多くの人にとって、庭は個人の表現であり、庭をつくることで、価値観や内なる感情を表現することができることが明らかにされている(フランシス 1996)。さらに、庭の植物は、人間の生活に取り込まれており、庭木がその代表である(進士 2002)。庭に植栽される植物は、食用などといった実用の面からも現在社会の中で重要性が増している(池谷 2013)。例えば、インドネシア、スマトラの都市の庭には果樹や薬草が多く植栽されている(柴田 1996)。アンデスでは、庶民の庭に薬用植物が多く植栽されていることが報告されている(Finerman and Sackett 2003)。また、庭に植栽される植物は、生物多様性の観点からも注目を集めている。例えば、近年、ニュージーランドでは、住宅の庭に自生種が植栽され、鳥を呼びよせるような庭づくりが推奨されている(林 2010)。

都市域での住宅の庭は、その居住者に恩恵を与えるだけでなく、まちなみの景観や住宅地の環境形成に果たす役割も少なくない(川根ほか 2000)。

これまで日本の大都市の庭における植物利用に関する研究は、邸宅の庭園を中心に庭園の利用、居住者の生活のなかにみえる庭園観といっ

た造園生活史の観点から行われてきた(鹿野ほか 1998; 神田ほか 2002; 古山ほか 2005)。例えば、俳人正岡子規の庭園における植物利用について歴史資料をもとに分析した報告(古山ほか 2005)や文豪夏目漱石の庭園における植物利用について文学作品をもとに分析した報告(神田ほか 2002)がある。また、日本庭園における植栽の変遷について、各時代の庭園に植栽されていた植物の種類、その管理技術について論じた通史(飛田 2002)がある。

庶民<sup>1)</sup>の庭における個々の植物ごとの利用方法に関する研究には、農村の農家の庭園趣味に関する報告(伊藤 1993)、紀伊半島の民家庭園を構成する植物について種ごとの利用方法を論じた報告(道下ほか 2007)などがある。

一方、庶民の庭は個人のテリトリー(中尾 1986)であるため、植物利用の実態を把握することは難しく、研究事例が農家の庭に比べて著しく少ないことが現状である。多くの庭園において植栽は重要な役割を担っている。庭園の植栽を明らかにすること、すなわち庭園にどのような植物が植えられていたか、植栽された理由について検討することは、日本庭園史上においても不可欠である(飛田 2002)。庶民が庭に植物を植えることは、その植物に対する観念がなければなされない。しかし、大都市の庶民の庭における植物利用の実態について論じた報告はわずかであり、これまでの報告では、東京都における下町の緑の実態と効用に関する報告(真鍋 1998)、都市住宅の庭の植栽から生まれるコミュニケーションに関する報告(木原 1999)、アンケート調査を主軸として庭における食べられる植物の利用について論じた報告(木下 2000)、が見られる程度である。庶民の庭を構成する植物の種類に関する情報は断片的である。

これまでに筆者は、東京都台東区谷中における第二次世界大戦前の長屋における植物利用(高野 2019)や庶民の庭の植物利用(高野 2020)について報告してきたが、戦後、とりわけ昭和30

年代における庶民の庭の植物利用の実態については、明らかにされていない。

庭の植物は、家の造りの変化に影響を受けやすいとされている(湯浅 2017)。昭和30年代は、家電や自動車が普及し、家事、娯楽、移動が世帯単位で行われるようになった時期であり、住宅が商品として扱われるようになり、都市住宅では、リビングルーム<sup>2)</sup>が導入されるなど住宅の構造が大きく変化した(山本 2011)。そのため、戦後の日本社会における家族と住宅の関係を分析する上でも、昭和30年代における庶民の庭の植物利用を明らかにすることは、重要であると考えられる。なお、昭和30年代は、日本の都市部では団地が増加した時期である(関沢 2011)。

本研究の目的は、東京都台東区谷中における昭和30年代の庶民の庭における植物利用について明らかにすることである。今回調査地として選定した谷中地域は関東大震災や第二次世界大戦での空襲ともに広範囲の焼失を免れており、昔ながらの街並み、長屋等が比較的残されている(椎原ほか 2000)。また、この地域は歴史的木造住宅<sup>3)</sup>が数多く残る地域として、全国的にも知られており、歴史的木造住宅は地域の重要な資源となっている(長谷川ほか 2005)。しかし、建物所有者の高齢化等により、改修資金を捻出できず、近年急速に歴史的木造住宅が消失しつつあることが現状である(長谷川ほか 2005)。

筆者は、2018年12月、2019年3月、5月に東京都台東区谷中において、昭和30年代に住宅の庭で撮影された写真の閲覧が可能であり、かつ当時の庭における植物利用について聞き取りが可能なA宅、B宅、C宅の3世帯を訪問した。本稿では、世帯主Aの庭付き住宅をA宅、世帯主Bの庭付き住宅をB宅、世帯主Cの庭付き住宅をC宅と呼ぶ。具体的には、このA宅、B宅、C宅の3世帯において写真による庭の風景の記録を行うとともに、各世帯の居住者に庭の植物や植物管理に関するインタビューを行った。A宅では、夫(80代)と妻(70代)にインタビューを行った。B

宅では、妻(70代)にインタビューを行った。C宅では、夫(70代)と妻(70代)にインタビューを行った。なおA宅については、戦前における植物利用について報告している(高野 2020)。

この3世帯にインタビューを行ったのは、現在の谷中の庶民の庭における植物利用について分析するためには、昭和30年代における植物利用に関する情報が不可欠だからである。

インタビューは1回の訪問につき、各世帯において3時間程度行われた。また、インタビューの際には、各世帯において自宅の庭で昭和30年代に撮影された写真<sup>4)</sup>を提供いただき、居住者と一緒に過去の庭の写真を確認しながら個々の植物の利用について聞き取りを行った。なお、各世帯におけるインタビューについては、録音は行っておらず、ノートの記述をもとに文章化した。過去の写真には日々の暮らしの中に埋もれ、忘れられてゆく時代の移り変わりが正確に記録されている(白幡 2004)。第二次世界大戦後から昭和30年代までは、写真を撮影することが可能であったのは、カメラマン等ごく一部の限られた人であったという(東京都台東区教育委員会生涯学習課 2015)。それゆえ、このような当時の社会環境のなかで、昭和30年代の庶民の庭の写真は、稀有であると思われる。

筆者は、本研究において個人のスナップ写真を分析することは、ライフヒストリーのみならず周囲の自然環境や社会環境を知るための重要な手がかりになると考えている。昭和30年代に各世帯の庭で撮影された写真には、庭の構成要素として木戸や板塀なども写されており、庭を中心とした庶民の暮らしの様子もごく一部であるが、垣間見ることができる。

本稿の目的は、A宅、B宅、C宅の3世帯における昭和30年代の庭の植物利用について聞き取り調査により復元したものを資料として紹介することである。本稿は、あくまでも3つの事例にすぎないが、昭和30年代における東京都の庶民の庭の植物利用に関する稀少な資料として呈示する。

## 2. 各世帯の暮らし

### 2.1 Aの暮らし

#### 2.1.1 Aとその家族の紹介

Aは、1935年に東京都台東区谷中の一戸建ての平屋で生まれた。Aは両親、兄、姉の5人で暮らしていた。Aは小学1年生から4年生まで忍ヶ丘小学校に通っていたが、1944年から1945年8月に終戦を迎えるまでの期間、母親と姉と一緒に富山県に疎開した。その後、富山県から東京都台東区谷中に戻ったが、自宅を貸家として父親の知人に貸していたため、両親と3人で自宅付近のアパートで生活していた。その後、1947年からは自宅で暮らすようになった。Aは義務教育を終えた後、会社員となった。Aは出張が多かったため、在職中は庭の管理に携わることができず、庭は母親と姉が管理していた。Aは1962年に茨城県の農家出身の妻と結婚した。妻がシソやサンショウをA宅に茨城県の実家から運び、庭に植えたことがきっかけとなり、庭の植物管理に積極的に携わるようになった。現在もダイオウグミをはじめとする樹木の枝の剪定などに携わっている（高野 2020）。

Aの母親は1905年生まれで富山県の出身であった。1914年に上京した後、1932年に結婚した。家ではミシンを用いて、裁縫に励んでいた。Aの妻（70代）は「主人の母は綺麗好きであり、生け花を趣味としてたしなんでいた」と語る（高野 2020）。昭和30年代、A宅に住んでいたのは、A、Aの妻、Aの両親であった。

#### 2.1.2 A宅の庭の概観

A宅の庭の外観を以下に紹介する。A宅には様々な植物が見られる。写真1は、A宅の北面であり、ミカン属の一種、ドクダミ、タンポポ属の一種が生育している。A宅の庭には現在でも戦前からの手水鉢が残されている。妻によると2009年頃からは庭に設置されている手水鉢の近くに帰化植物のシンテッポウユリの生育が確認されるようになり（高野 2020）、現在、A夫妻は

毎年、シンテッポウユリの花が咲くことを楽しみにしながら、本種をはじめとする植物管理を行っている。

### 2.2 Bの暮らし

#### 2.2.1 Bとその家族の紹介

Bは、1948年に東京都で生まれた。1951年より東京都台東区谷中の家で暮らしている。Bは、中学生のころ、当時、希少であった一眼レフのカメラに関心を持ち、自宅の庭で当時飼育していた犬の写真を撮影していた。当時は、植物は関心がなかったが、庭の水やりなどを通して、次第に自宅の庭の自然環境に興味をもつようになり、現在では父親が植えた植物を中心とした庭の植物管理に積極的に取り組んでいる。

Bの父親は、1915年生まれであり、会社員として働いていた。1951年に現在の東京都台東区谷中の家を購入した。勤務先の定休日は、毎週日曜日であった。Bの父親は、様々な種類の植木を自ら購入するほど植物に関心が深く、B宅では、毎週日曜日に庭の植物管理に携わっていた。

Bの母親は、1921年生まれであった。Bの母親は、夫が購入した庭の植物の管理に携わっていた。昭和30年代、B宅に住んでいたのは、BとBの両親であった。

#### 2.2.2 B宅の庭の概観

B宅の庭の概観を以下に紹介する。B宅には様々な植物が見られる。B宅の庭の土壌は湿潤であり、ミズヒキなど日陰を好む植物が生育していることが特徴である。写真2は、B宅の北西の面を撮影したものであり、ボケ（園芸品種）、ロウバイ、ハナミズキなどがみられる。ロウバイは、戦前からB宅に植栽されているものであり、Bの父親が1957年にこの家を購入する時には、ロウバイは、すでに大きく成長しており、開花に至っていたという。現在では、このロウバイの花を観賞するためにB宅を訪れる人々も

いるという。

## 2.3 Cの暮らし

### 2.3.1 Cとその家族の紹介

Cは、1943年に東京都台東区谷中で生まれた。Cは、アパートの管理に携わっていた。Cは、植物にはほとんど興味を示さないが、庭で食用になる植物の果実を食したことや過去の庭の様子を鮮明に記憶している。Cは、1973年に妻と結婚した。その後、谷中の街並みを撮影することに興味をもち、当地の長屋などの街並みを写真で記録することにつとめている。

Cの父親は、1904年生まれで、刺繍の職人であった。直接、庭の植物管理に携わることはなかったが、庭の植物を愛でることを好んだ。

Cの母親は、主婦として家庭を支えていたが、庭の植物には関心を示さなかった。昭和30年代、C宅に住んでいたのはCとCの両親であった。

### 2.3.2 C宅の庭の概観

C宅の庭の概観を以下に紹介する。C宅には、石畳の周囲にヤブラン（斑入り）など様々な植物がみられる。写真3はC宅の庭の南面を撮影したものであり、地蔵の近くにはアジサイ、キンモクセイなどがみられる。

## 3. 庭の植物にまつわる家族との思い出

A宅、B宅、C宅の各世帯において、居住者の語りを聴くと必ず出てくるのが庭の植物にまつわる家族との思い出である。ここでは、3世帯における庭の植物にまつわる家族との思い出についてA宅から順番に紹介する。

### 3.1 A宅における庭の植物にまつわる家族との思い出

A夫妻の語りを聴くと必ず出てくるのが、植物にまつわる家族との思い出である。Aの父は、カキノキ（甘柿）やダイオウグミをはじめとする果樹を好んだ。Aの母は、庭の花を生けるこ

とはあったが、植物の栽培には、あまり関心がなかった。Aの家族の中で最も植物に興味を示していたのは、Aの姉である。Aの姉は植物の栽培について非常に興味を示していた（高野2020）。

表1にA宅の庭の植物利用についてまとめた。表1における植物の記載順は、学名のアルファベット順に基づいている。表1より、Aが誕生した1935年から2019年に至るまでに、A氏宅で利用されてきた植物は、合計110種類である（高野2020）。A宅の庭における植物の存在期間を（1）Aの誕生から第二次世界大戦終戦までの時期（1935年から1945年）、（2）第二次世界大戦後からAが結婚する前までの時期（1946年から1961年）、（3）Aの結婚後から自宅の改築までの時期（1962年から1975年）、（4）自宅の改築から2019年現在までの時期（1976年から2019年）の4つの時期に区分した。以下に表1から読み取れることを記述する。

（1）Aの誕生から第二次世界大戦終戦までの時期（1935年から1945年）では合計27種類の植物の生育が確認され、このうち19種類の植物が利用されていた。具体的には、観賞<sup>5)</sup>が10種類、食用が7種類、縁起物が1種類、薬用が1種類であった。

（2）第二次世界大戦後からAが結婚する前までの時期（1946年から1961年）では、合計23種類の植物の生育が確認され、このうち18種類の植物が利用されていた。具体的には、観賞が11種類、食用が5種類、縁起物が1種類、薬用が1種類であった。

（3）Aの結婚後から自宅の改築までの時期（1962年から1975年）では、合計33種類の植物の生育が確認され、このうち18種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が13種類、食用が4種類、縁起物が1種類、行事が1種類であった。

（4）自宅の改築から2019年現在までの時期（1976年から2019年）では、合計107種類の生育

が確認され、このうち52種類が利用されていた。その利用方法は、観賞が38種類、食用が10種類、縁起物が1種類、行事が1種類、仏花が1種類であった。表1より、A宅では自宅の庭の植物は主として、食用や観賞に用いていたことが読み取れる(高野 2020)。

以下に昭和30年代を中心とした植物にまつわるA宅における家族の思い出を6種類の植物を通して紹介する。植物の記載順は学名のアルファベット順に基づいている。

### 3.1.1 ハラン *Aspidistra elatior*

Aの母は、庭に生えているハランの葉を切り取り、2つの用途に用いていた<sup>6)</sup>。1つめの用途は、ハランの葉を皿の上に敷きつめて、その上に菓子を載せていたことである。2つめの用途は、玄関に花を飾るときにハランの葉を添えていたことである。このハランは、現在も庭に配置された手水鉢付近に生育している。

### 3.1.2 アオキ (園芸品種) *Aucuba* cv.

Aの妻は、アオキ (園芸品種) について次のように話す。

「この家に嫁いだ時、葉に黄色の点の模様が付いたアオキがあったことを鮮明に覚えています。アオキとともに、当時の家の様子を思い出します。この家の台所には障子があり、障子を開けるとアオキの葉が見えました。この家は1976年に改築する前は、台所から庭を眺めることができるようになっていました。アオキが生えていたところは、決して日当たりが良い場所とは言えず、1年を通して湿り気が多い場所でした。台所には障子があり、その障子の外には雨戸が付いていました。」

### 3.1.3 ミツマタ *Edgeworthia chrysantha*

Aの妻は、1962年にこの家に嫁いだ時、玄関の近くにミツマタの黄色い花が咲いていたことを記憶している。Aの妻によると本種は紙の原

料になるという<sup>7)</sup>。A宅にミツマタの樹は現存しない。

### 3.1.4 ヤツデ *Fatsia japonica*

Aの妻は、ヤツデについて次のように話す。

「1962年、私がこの家に嫁いだ時、庭にはヤツデが沢山生えていました。この家に嫁いだときの第一印象はヤツデの多い屋敷でした。私の出身地は茨城県ですが、そこでは葉の先が八つに分かれたヤツデの葉を神棚に備えていました。ヤツデの葉は、葉の先が七つや九つに分かれたものが多く、葉の先が八つに分かれた葉は少ないです。それゆえ、出身地ではヤツデの八つに分かれた葉を神棚に供えたと、戦争に行った人が戻って来ると言われていました。私にとってヤツデは戦争を思い出す植物です。ヤツデは、葉があまりにも大きくなりすぎるので、庭の管理をする上では少し困る植物の1つでもあります。」

昭和30年代のA宅の玄関先には、ヤツデが見られた(写真4)。玄関先には、AとAの妻、Aの子どもが写っている。

### 3.1.5 シュロ *Trachycarpus fortunei*

A宅にはシュロが戦前から生育している。Aによると、シュロは子どものころから庭に生えていたので身近な植物であった。Aの母親は、シュロの葉先を丸く刈り込んでいた<sup>8)</sup>。写真5は、1964年に庭で撮影されたもので、葉の先端が丸く刈り込まれたシュロが写っている。なお写真5にはAの妻とAの子どもが庭で、当時、飼育していた犬と触れ合う様子も写されている。

### 3.1.6 フジ *Wisteria floribunda*

Aにとって、庭のフジは身近な植物で有った。フジは戦前より生育しており(高野 2020)、花色は、紫色を呈していた。本種は木戸の近くに生えており、その蔓は木戸の上を通過して伸びていた。Aの妻は、フジについて次のように話す。

「私が嫁いだ時は、庭にフジがあったことは記憶していますが、フジ棚はなかったです。」現在は、本種の生育を確認することができない。A宅には、1961年8月に撮影されたフジの写真が残されている(写真6)。写真6には、撮影年月が「S.36.8」と明記されており、Aの母と当時自宅で飼育していた犬とともに写っている。

### 3.2 B宅における庭の植物にまつわる家族との思い出

B宅に暮らすB(70代女性)の語りを聴くと必ず出てくるのが、植物にまつわる家族との思い出である。Bの父は、植物に強い関心を持ち、休日にはタクシーを利用して埼玉県川口市の安行<sup>7)</sup>まで出かけ、ボケをはじめとする様々な植物を購入して庭に植えていた。Bの母は、夫が出かけている時は、水やりに携わっていた。

表2にB宅の庭の植物利用についてまとめた。表2における植物の記載順は、学名のアルファベット順に基づいている。表2より、Bが両親とともに現在の家に住むようになった1951年から2019年に至るまでにB宅で利用されてきた植物は合計68種である。植物の存在期間を(1)Bが現在の家に住むようになった時期からBが結婚する前までの時期(1951年から1970年)、(2)Bの結婚後から自宅改築までの時期(1971年から1993年)、(3)自宅改築から2019年現在までの時期(1994年から2019年)の3つの時期に区分した。以下に表2から読み取れることを記述する。

(1) Bが現在の家に住むようになった時期からBが結婚する前までの時期(1951年から1970年)では、合計24種類の植物の生育が確認され、このうち19種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が14種類、遊びが2種類、学習/観賞が1種類、縁起物が1種類、行事が1種類であった。

(2) Bの結婚後から自宅改築までの時期(1971年から1993年)では、合計25種類の植物の生育が確認され、このうち16種類の植物が利用され

ていた。その利用方法は、観賞が13種類、食用が1種類、縁起物が1種類、行事が1種類であった。

(3) 自宅の改築から2019年現在までの時期(1994年から2019年)では、合計62種類の植物の生育が確認され、このうち43種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が37種類、食用が2種類、記念樹が2種類、薬用が1種類、行事が1種類であった。表2より、B宅では自宅の庭の植物は、主として、観賞に用いていたことが読み取れる。

以下に植物にまつわるB宅における家族の思い出を10種類の植物を通して紹介する。植物の記載順は学名のアルファベット順に基づいている。

#### 3.2.1 ミズヒキ *Antenoron filiforme*

Bは、幼少期にはB宅の庭にミズヒキが生育していたことを鮮明に覚えている。本種を遊びの材料として活用したことはないが、本種の赤い穂が印象に残ったという。現在もB宅の庭には、本種の生育が確認されている。

#### 3.2.2 ツバキ(園芸品種) *Camellia* sp.

1962年頃、Bの父親はツバキ(園芸品種)の苗木を埼玉県川口市の安行<sup>9)</sup>で買い求め、タクシーに苗木をのせて自宅に持ち帰り、庭に植えた。Bによると、本種は、種子ができないという。本種は、庭に現存しており、開花が確認されている。

#### 3.2.3 ボケ *Chaenomeles* cv.

Bはボケについて次のように話す。

「今から50年ほど前に父が、苗木を植えていたことを思い出します。今では、毎年のように花が咲き、果実ができることもあります。」

#### 3.2.4 ジンチョウゲ *Daphne odora*

Bの父親は、昭和30年代に谷中墓地に生育しているジンチョウゲから枝を採集して、自宅に

持ち帰り、挿し木を試みた。Bによると、父親が挿し木に供した枝は無事に定着して、成長し開花に至ったという。現在、本種の生育を確認することはできない。

### 3.2.5 キショウブ *Iris pseudoacorus*

Bは、キショウブについて次のように話す。

「キショウブは、父が購入したもので庭に植えました。キショウブは、父が好んだ花の1つでもあり、この花について語るとき、父のことを思い出します。」

### 3.2.6 ロウバイ *Meratia praecox*

ロウバイについては、B宅に伝わるエピソードが残されている。それは、1951年にBの父親がこの家を購入した際には、本種は、既に庭に植栽されており、開花していたという事実である。本種は戦前に植栽されていたという。B宅は、Bによると、1951年以前は、漢学者が住んでいた家であったという。Bは幼少期からこのロウバイの花を観察しており、Bにとって本種は身近な庭の植物である。

### 3.2.7 オシロイバナ *Mirabilis jalapa*

Bは、子どもの頃、庭のオシロイバナをままごと遊びによく用いていた。Bにとって本種は幼少期を思い出す花だという。Bの話では、数年前まではオシロイバナが庭に生育していたが、最近では、全く生育が確認できていないという。Bは、オシロイバナの生育が確認されることを心待ちにしている<sup>10)</sup>。

### 3.2.8 ムラサキカタバミ *Oxalis martiana*

B宅には、中学生であったBが一眼レフのカメラを用いて、1960年から1963年までの間に撮影した当時の庭の様子が読み取れる写真が残されている（写真7）。写真7には、ムラサキカタバミの葉も記録されている。Bによると、ムラサキカタバミはBが幼少期の頃から庭の日陰の湿り

気が多い土壤に生育していたという。

### 3.2.9 アサガオ *Pharbitis nil*

B宅には、中学生であったBが一眼レフのカメラを用いて、1960年から1963年までの間に、庭で当時飼育していた犬を中心に撮影した写真が残されている（写真8）。写真8には、アサガオの植木鉢も記録されている。アサガオは、夏休みの宿題の一環で、アサガオの観察日記をつけるために種子を播いて植木鉢で栽培していた。B氏がアサガオを観察日記の対象としたのは、本種であれば夏休みの1ヶ月で成長を記録し、観察記録としてまとめることができたからだという。

### 3.2.10 ライラック（白花） *Sylinga vulgaris*

ライラック（白花）は、Bの父親が東京都内で苗木を購入して庭に直植えにしたものである。Bによると、本種は開花すると良い香りがしたという。写真7および写真8にも本種は写っている。本種は現存しない。

## 3.3 C宅における庭の植物にまつわる家族との思い出

C夫妻の語りを聴くと必ず出てくるのが、植物にまつわる家族との思い出である。C夫妻は、植物にそれほど関心を示さないが、庭の植物を好んだCの父親のことを思い出するという。表3にC宅の庭の植物利用についてまとめた。表3における植物の記載順は、学名のアルファベット順に基づいている。

表3より、Cが生まれた1943年から2019年に至るまでにC宅で利用されてきた植物は合計49種である。植物の存在期間を（1）Cの誕生からCが結婚する前までの時期（1943年から1972年）、（2）Cの結婚後から自宅改築までの時期（1973年から1976年）、（3）自宅改築から2019年現在までの時期（1977年から2019年）の3つの時期に区分した。以下に表3から読み取れることを記述



する。

(1) Cの誕生からCが結婚するまでの時期(1943年から1972年)には合計9種類の植物の生育が確認され、このうち7種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が6種類、食用が1種類であった。

(2) Cの結婚後から自宅改築までの時期(1973年から1976年)では、合計10種類の植物の生育が確認され、このうち7種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が6種類、食用が1種類であった。

(3) 自宅改築から2019年現在までの時期(1977年から2019年)では、合計43種類の植物の生育が確認され、7種類の植物が利用されていた。その利用方法は、観賞が7種類であった。表3より、C宅では自宅の庭の植物は、主として、観賞に用いていたことが読み取れる。

以下に植物にまつわるC宅における家族の思い出を4種類の植物を通して紹介する。なお、植物の記載順は学名のアルファベット順に基づいている。

### 3.3.1 ビワ *Eriobotrya japonica*

Cは、1973年頃に、結婚後に購入したビワの実を妻と一緒に食した後、その種子を庭に直接播いた。その後、本種の種子が発芽して大きく成長したことを覚えている。現在、本種の生育を確認することはできない。

### 3.3.2 サルスベリ *Lagerstroemia indica*

1955年頃、Cの父親は知り合いの植木屋からサルスベリの株を譲り受け、その後、当該株が庭に植栽された。1957年頃に撮影された庭の写真(写真9)には本種が写っている。

Cは、庭に植栽された本種の特徴<sup>11)</sup>を鮮明に記憶している。

「サルスベリは花色が赤色であったことを覚えています。樹の皮がむけていたことを覚えています。」

### 3.3.3 キンモクセイ *Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*

1955年頃、Cの父親は知り合いの植木屋からキンモクセイの株を譲り受け、その後、当該株が庭に植栽された。1957年頃に撮影された庭の写真(写真9)には本種が写っている。

Cは、キンモクセイについて次のように話す。

「庭には、大きなキンモクセイの木がありました。きれいな花が咲き、良い香りがしていました。」

### 3.3.4 ザクロ *Punica granatum*

1955年頃、Cの父親は知り合いの植木屋からザクロの株を譲り受け、その後当該株が庭に植栽された。1957年頃に撮影された庭の写真(写真9)には本種が写っている。

Cは、ザクロについて次のように話す。

「ザクロは、子どもの頃に、皮をむいてよく食べました。皮をむくと、粒状のものがありますが、ほとんど種子であったことを覚えています。」

## 4. 庭の植物管理

### 4.1 A宅における庭の植物管理

ここでは、A宅の庭において、どのような植物管理が行われていたかについて紹介する。戦前、A宅の庭では、庭の片隅にトマトなどの野菜を栽培する畑がつくられていた。畑の畝づくりや水やりは当時、女学校に通っていた姉が担っていた。Aの姉が出かけている時は、水やりは母親が行っていた(高野 2020)。1962年にAの妻がA宅に嫁いでからは、水やりをはじめとする庭の植物管理は、Aの妻が中心となり行っている。妻がシソやサンショウを庭で栽培するようになってから、Aも庭の植物管理に積極的に携わるようになり、現在も樹木の剪定などに携わっている。

### 4.2 B宅における庭の植物管理

ここでは、B宅の庭において、どのような植

物管理が行われていたかについて紹介する。昭和30年代、B宅の庭ではBの父親が毎週日曜日に、庭の水やりを行っていた。Bの父親は、庭において堆肥づくりにも取り組んでいた。日曜日以外は、Bが水やりを行っていた。日曜日以外で、Bが出かけている時は、水やりはBの母親が行っていた。当時、B自身は植物にはあまり興味がなかったが、その後、Bは庭の植物管理を行うなかで、庭に来る野鳥など周囲の自然環境とのかかわりについて関心をもち、現在では、戦前から植栽されているロウバイや父親が植えたシダレウメを中心に植物管理を積極的に行うようになっていた。

#### 4.3 C宅における庭の植物管理

ここでは、C宅の庭において、どのような植物管理が行われていたかについて紹介する。C宅では、庭の土壌が常に湿潤であること、庭の植物はすべて直接、地面に植栽されていることから、庭の水やりは、ほとんどなされなかったという。当時、C宅では、植物の管理そのものよりも、庭を取り囲む板塀の管理が重点的に行われていた。Cの父親は、門柱の上にすり鉢をのせて木製の塀が腐らないようにしていた。Cによると、門柱の上にすり鉢をのせていた家は周囲ではみられなかったが、降雨のために塀が腐食を受けることはなかったという。現在では、Cの妻が中心となって庭の植物管理を行っている。

### 5. まとめ

本研究の目的は、東京都台東区谷中における昭和30年代の庶民の庭における植物利用について明らかにすることであった。

本稿では、東京都台東区谷中におけるA宅、B宅、C宅の3世帯における植物利用の事例を資料として紹介した。本研究では、昭和30年代の庶民の庭の植物利用について過去の庭の写真が残されているA宅、B宅、C宅の3世帯を訪問し、聞

き取り調査を行った。その結果、昭和30年代の谷中地域の庶民の庭における植物利用の一端が明らかになった。

現在では、昭和30年代の生活環境を知る方々は、高齢になり、植物利用に関する聞き取り調査や過去の写真の閲覧は困難であるように思われる。

現在、谷中地域では、建物所有者の高齢化等により、歴史的木造住宅が消失しつつあり（長谷川ほか 2005）、庭そのものが著しく減少している。

庶民の庭における植物の種類や利用方法については、昭和30年代と昭和30年代以降では変化があるように思われる。具体的には、A宅ではハランのように戦前からみられ昭和30年代にも利用されていた植物も一部は現存しているが、フジなど現在では生育が確認できない種類もある。B宅では、ロウバイのように戦前からみられ昭和30年代にも利用されていた植物も一部は現存しているが、ムラサキカタバミなど現在では生育が確認出来ない種類もある。C宅では、昭和30年代の庭自体は残されていないが、庭の土は、一部ではあるが当時のまま残されている。Cは、C宅における植物利用のなかでも、果樹について明確に記憶していた。表3より、C宅で見られた植物の中から果樹を列挙するとビワ、ザクロの2種類があげられる。庭付きの家に暮らす人々にとって庭の植物は、観賞用であると同時に食用にできるか否かで選ばれることが多い（池谷 2013）。C宅の庭で見られたビワやザクロは、花や実を楽しむことができる特徴を有していると考えられる。

今後も聞き取り調査を続けながら昭和40年代以降における日本人の暮らしや社会情勢について捉えてゆくことが研究課題である。

本稿は、A宅、B宅、C宅の3世帯にインタビューを行った結果の一部を短文にまとめたものすぎないが、現在では昭和30年代の植物利用に関する知見や庭で撮影された写真は大変貴重な資

料であると筆者は考えている。

## 謝辞

本稿は2019年6月に開催された第16回生き物文化誌学会東京大会における口頭発表の原稿に執筆したものである。本稿を執筆するにあたり、東京都台東区谷中における現地調査は2019年度生き物文化誌学会さくら基金および2020年度さくら基金の助成を受けました。また、調査対象者の方々には、聞き取り調査にご協力いただくとともに昭和30年代に撮影された庭の写真資料を多数ご提供いただきました。池谷和信先生には東京都台東区谷中におけるフィールドワークを支援していただくとともに本稿に関する貴重なご助言をいただきました。

記して感謝いたします。

## 注

- 1) 本研究における庶民とは、日本国民をその生活水準の観点から階層に分けた場合に、上流階級とされる権力者や富豪ではなく、下層階級とされる人びと（中尾 1986）のことを指す。近代の日本社会においては、庶民は、労働者階級であるとされる（三村 2011）。なお、本研究では、庶民が暮らす家は、文化財指定を受けるような家ではなく、一般的な家族のための住居（福島ほか 2020）をとらえている。
- 2) リビングルームとは、家具や家電製品の配置によって構成される洋風の生活空間を指す（山本 2011）。
- 3) 歴史的木造住宅とは、主に戦前までに改築された木造住宅のことを指す（長谷川ほか 2005）。
- 4) A、B、Cの各世帯には庭で撮影された写真が多数保管されている。
- 5) 本研究における観賞とは、「花を愛でる」思いや行為（白幡 2007）を指す。  
白幡（2007）によると、現在社会において人びとが「花を愛でる」ことは、学習を通じた経験や知識をもとに行われる文化的な行動であり、この行動の根源には、社会的、文化的に作り上げられた美意識が存在するという。
- 6) Aの母は、庭のハランの葉のなかでも、とりわけ若く、青々とした葉を選択し利用していた。

- 7) ミツマタは和紙の原料の1つである。江戸時代までコウゾ、ガンピと並び、和紙には欠かせない存在であった（湯浅 2017）。
- 8) シュロの葉は成長するに伴い、葉の先が折れ曲がる性質がある。
- 9) 埼玉県川口市の安行は、植木の生産で有名な町であった。
- 10) Bは、オシロイバナの花を再び自宅の庭で観賞したいと思っている。
- 11) サルスベリは、幹は平滑で皮はうすくはげ、そのあとは雲紋上に白く残る性質を有している（北村・村田 1971）。

## 参考文献

### 日本語文献

池谷和信

- 2013 「生き物文化の地理学の誕生 生き物資源利用と管理の思想」池谷和信編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻 生き物文化の地理学』349-367、海青社。

磯野直秀

- 2007 「明治前園芸植物渡来年表」『慶応義塾大学日吉紀要 自然科学』42: 27-58。

伊藤清晴

- 1993 「山村の農家庭に関する研究II—長谷川非持地区を事例とする農家敷地の庭園趣味—」『信州大学農学部紀要』30(2): 65-87。

川根あづさ・愛甲哲也・浅川昭一郎

- 2000 「北海道恵庭市恵み野を事例とした住民の庭づくりに対する意識と取り組みについて」『ランドスケープ研究』63(5): 695-700。

神田圭一・鈴木 誠

- 2002 「夏目漱石の庭園観に関する研究」『ランドスケープ研究』65(5): 389-392。

北村四郎・村田 源

- 1971 『原色日本植物図鑑・木本編 (I)』保育社。

木下 勇

- 2000 「エディブルランドスケープの形成への住民の意識に関するケーススタディ」『ランドスケープ研究』63: 687-690。

木原朝子

- 1999 「都市住宅の植栽から生まれるコミュニケーションに関する研究—世田谷区代田・梅丘を対象として—」『日本庭園学

- 会誌』8: 1-12。
- 小松 冨・守田益宗  
2003 「岡山県における都市住民の園芸植物の好みとその地域性」『岡山理科大学自然植物園研究報告』8: 23-29。
- 椎原晶子・手嶋尚人・益田兼房  
2000 「江戸明治の都市基盤継承地区における歴史的町並み、親しまれる環境の継承と阻害—台東区谷中・初音の道地区を事例に—」『都市計画論文集』35: 799-804。
- 鹿野陽子・服部 勉・楊舒淇・仲田茂司・進士五十八  
1998 「東京都目黒区旧西郷従道邸庭園に関する造園生活史的研究」『ランドスケープ研究』61: 389-394。
- 柴田 祐・田原直樹・薄井謙一・福田忠昭  
1996 「インドネシア、スマトラの都市における住宅の庭に関する一考察」『ランドスケープ研究』59(5): 233-236。
- 下村 孝・福永才子・加藤 博  
2005 「京都の町屋における前栽と坪庭の実態とその役割」『ランドスケープ研究』68(5): 467-472。
- 白幡洋三郎  
2000 『花見と桜—「日本的なるもの」再考』PHP研究所。
- 白幡洋三郎  
2004 『幕末・維新・彩色の京都』京都新聞出版センター。
- 白幡洋三郎  
2007 「花を觀賞する、花を育てる—花を愛でる美意識」日高敏隆・白幡洋三郎編『人はなぜ花を愛でるのか』227-262、八坂書房。
- 進士五十八  
2002 「人間・植物関係学の原点」『人間・植物関係学会誌』1(2): 2-4。
- 関沢まゆみ  
2011 「高度経済成長と生活変化代6展示「現代」のテーマから」『国立歴史民俗博物館研究報告』171: 157-180。
- 高野哲司  
2019 「戦前における人生の記憶と植物利用—東京都台東区谷中の事例—」『総研大文化科学研究』15: 137-150。
- 高野哲司  
2020 「戦前における庶民の庭の植物利用—東
- 京都台東区谷中の事例—」『総研大文化科学研究』16: 55-72。
- 橋 セツ  
2013 「都市の觀賞植物と庭園の変容—近代英国における園芸とモラルの実践」池谷和信編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻. 生き物文化の地理学』301-323、海青社。
- 田畑貞寿・池辺このみ  
1983 「緑被空間からみた居住環境の安定化に関する研究」『都市計画論文集』18(0): 127-132。
- 塚本洋太郎  
1984 『原色花卉園芸大事典』養賢堂。
- 寺崎留吉・奥山春季  
1977 『寺崎日本植物図譜』平凡社。
- 東京都台東区教育委員会生涯学習課  
2015 『平和記念写真集台東原風景—町並みの中に息づく平和』東京都台東区生涯学習課。
- 中尾佐助  
1986 『花と木の文化史』岩波新書。
- 仁田坂英二  
2009 「古典園芸植物のドメスティケーション」山本紀夫編『ドメスティケーション—その民族生物学的研究』国立民族学博物館調査報告 84: 409-443。
- 野本寛一  
2006 「屋敷林の民俗—宮城県のイグネを緒として」『民俗文化』18: 11-75。
- 長谷川智志・中井検裕・中西正彦  
2005 「歴史的木造住宅の活用・再生を目的とした不動産証券化手法の成立可能性に関する研究—台東区、谷中・上野桜木地区を対象として—」『都市計画論文集』40(3): 445-450。
- 林まゆみ  
2010 『生物多様性をめざすまちづくり—ニュージーランドの環境緑化』学芸出版社。
- 飛田範夫  
2002 『日本庭園の植栽史』京都大学学術出版会。
- 福島加津也・富永祥子・菊池 暁・本橋 仁・金田雄太・佐脇礼二郎  
2020 「日本の住空間における儀式性—建築のエクスタシーを生み出す儀式と住空間の関係について—」『住総研研究論文集・

- 実践研究報告集』46: 97-108。
- フランシス・マーク  
1996 「日常性と個人性:六つの庭の物語」M.フランシス・R.T.ヘスター Jr. (共編) 佐々木葉二・吉田鐵也 (共訳) 『庭の意味論』217-225、鹿島出版会。
- 古山道太・服部 勉・進士五十八  
2005 「正岡子規の庭園観・植物観と子規庵庭園 (1894 ~ 1902) の図上復原」『ランドスケープ研究』68(5): 377-380。
- 増野高司  
2013 「日本の花見に集まる人々 大阪府における公園の空間利用の事例」池谷和信編 『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻. 生き物文化の地理学』325-348、海青社。
- 真鍋千恵子  
1998 「下町の緑の実態と効用 事例報告7: 下町の緑 下町の緑の実態と効用～街と人とを緑がつなぐ」『ランドスケープ研究』62(1): 42-44。
- 道下雄大・梅本信也・山口裕文  
2007 「紀伊半島南部における民家庭園のフロ
- ラの多様性」『エコソフィア』19: 73-85。
- 三村達也  
2011 「近代日本における住宅研究の史的展開—「庶民住宅」研究の進展を中心に—」『千葉大学人文社会科学研究』23: 98-114。
- 山本理奈  
2011 「都市における住宅の商品化とその変容—家族の空間から身体感覚の空間へ—」『社会学評論』62(2): 172-188。
- 湯浅浩史  
2017 『日本人なら知っておきたい四季の植物』ちくま新書。

## 英語文献

Finerman, Ruthbeth and Ross Sackett

- 2003 “Home Gardens to Decipher Health and Healing in the Andes.” *Medical Anthropology Quarterly, New Series*, 17(4): 459-482.

2020年9月29日 受付

2020年12月7日 採択決定



写真1 A宅の庭の概観  
 特記2：黄色の太字は、植物名を示す。  
 出所：2019年5月東京都台東区谷中にて筆者撮影。



写真2 B宅の庭の概観  
 特記：黄色の太字は、植物名を示す。  
 出所：2019年3月東京都台東区谷中にて筆者撮影。



写真3 C宅の庭の概観

特記：黄色の太字は、植物名を示す。

出所：2018年12月東京都台東区谷中にて筆者撮影。



写真4 A宅の玄関先におけるヤツデの写真

特記2：1964年に玄関先で撮影された。撮影者は不明である。

特記1：黄色の太字は、植物名を示す。

出所：A夫妻提供による。

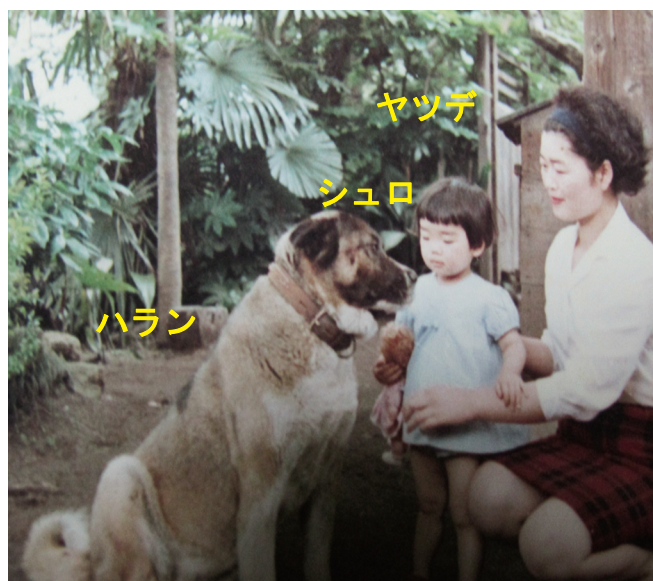


写真5 背景にシュロが写る写真

特記1：1964年に庭で撮影された。撮影者は不明である。

特記2：黄色の太字は、植物名を示す。

出所：A夫妻提供による。



写真6 A宅の庭のフジの写真

特記1：1961年8月（昭和36年8月）に撮影された。撮影者は不明である。

特記2：黄色の太字は、植物名を示す。

出所：A夫妻提供による。





写真7 Bの庭でライラックが栽培されている様子  
特記1：1960年から1963年までの期間にBにより撮影された。  
アサガオ、ムラサキカタバミも写っている。  
特記2：黄色の太字は、植物名を示す。  
出所：B提供による。



写真8 B宅の庭でアサガオが栽培されている様子  
特記1：1960年から1963年までの期間にBにより撮影された。  
アオギリの落ち葉、ライラック（白花）、ロビビア属 sp. も写っている。  
特記2：黄色の太字は、植物名を示す。  
出所：B提供による。



写真9 C宅の庭におけるザクロの写真

特記1：1957年頃に撮影された。撮影者は不明である。

特記2：黄色の太字は、植物名を示す。

出所：C提供による。

表1 A宅の庭における植物利用

標準和名	学名	大分類 <sup>1)</sup>	科	植物の存在期間と植物利用 <sup>2)</sup>				野生植物 <sup>3)</sup>		栽培植物		果実 <sup>6)</sup>	備考
				1935年-1945年	1946年-1961年	1962年-1975年	1976年-2019年	在来種	外来種	明治以前 <sup>4)</sup>	明治以降 <sup>5)</sup>		
ウキツリボク	<i>Abutilon megapotamicum</i>	木本	アオイ			観賞				○	なし		
カエデ属の一種	<i>Acer</i> sp.	木本	カエデ			観賞				○	なし		
セイヨウキランソウ	<i>Ayuga reptans</i>	草本双子葉	シソ			観賞				○	なし		
ノビル	<i>Allium grayi</i>	草本単子葉	ユリ			観賞		○			なし		
アロエ属の一種	<i>Aloe</i> sp.	草本単子葉	ユリ			観賞				○	なし		
アルストロメリア	<i>Alstroemeria</i> cv.	草本単子葉	ユリ			観賞				○	なし		
アマリリス	<i>Amaryllis</i> cv.	草本単子葉	ユリ			観賞				○	なし		
コンニャク	<i>Amorphophallus konjac</i>	草本単子葉	サトイモ			食用		○			なし		
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	木本	ニレ					○			なし		
マンリョウ	<i>Arisia crenata</i>	木本	ヤブコウジ			観賞/行事					なし		
ハラシ	<i>Aspidistra elatior</i>	草本単子葉	ユリ	観賞	観賞	観賞		○			なし	本文3.1.1を参照	
イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>	シダ類	イワテンダ					○			-		
アオキ (園芸品種)	<i>Aucuba</i> cv.	木本	アオキ	観賞	観賞	観賞				○	なし	本文3.1.2を参照	
アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	木本	アオキ	観賞	観賞	観賞				○	なし		
ペゴニア (園芸品種)	<i>Begonia</i> cv.	草本双子葉	シユウカイドウ			観賞				○	なし		
アワゴケ	<i>Callitriche japonica</i>	草本双子葉	アワゴケ					○			黄緑色		
シイ属の一種	<i>Castanopsis</i> sp.	木本	ブナ					○			なし		
ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	草本双子葉	ブドウ					○			なし		
カリシ	<i>Chaenomeles sinensis</i>	木本	バラ	食用	食用	食用				○	黄色		
センリョウ	<i>Choranthus glaber</i>	木本	センリョウ			観賞					なし		
オリゾラン	<i>Chlorophytum comosum</i>	草本単子葉	ユリ			観賞				○	なし		
シユンギク	<i>Chrysanthemum coronarium</i>	草本双子葉	キク			食用				○	なし		
ミカン属の一種	<i>Citrus</i> sp.	木本	ミカン			食用				○	黄色		
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	草本単子葉	ツユクサ					○			白色		
カネノナルキ	<i>Crassula portulaca</i>	草本双子葉	パンケイソウ			観賞					なし		
ミツバ (蓋が白色)	<i>Cryptotania japonica</i>	草本双子葉	セリ					○			なし		

ミツバ (蓋が紫色)	<i>Cryptotania japonica</i>	草本双子葉	セリ							白色	なし	
シンビジウム (園芸品種)	<i>Cymbidium</i> cv.	草本双子葉	ラン						○	なし	なし	
ソテツ	<i>Cycas revoluta</i>	木本	ソテツ						○	なし	なし	
オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	シダ植物	オシダ					○		-	-	
キュウリ	<i>Cucumis sativus</i>	草本双子葉	ウリ	食用					○	黄色	緑色	
セリハヒエソウ	<i>Delphinium anthriscifolium</i>	草本双子葉	キンポウゲ					○		紫色	黄緑色	
メヒシハ属の一種	<i>Digitaria</i> sp.	草本単子葉	イネ					○		なし	なし	
ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	草本単子葉	ヤマノイモ					○		なし	なし	
カキノキ (柑橘)	<i>Diospyros kaki</i>	木本	カキノキ	食用					○	黄緑色	橙色	
カキノキ (園芸品種)	<i>Diospyros</i> cv.	木本	カキノキ						○	黄緑色	なし	
ヘビイチゴ属の一種	<i>Duchesnea</i> sp.	草本双子葉	バラ					○		なし	なし	
エケベリア属の一種	<i>Echeveria</i> sp.	草本双子葉	ペンケイノウ							白色	なし	
ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>	木本	ジンチョウゲ	觀賞	觀賞				○	黄色	なし	本文3.1.3を参照
ダイオウグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> var. <i>gigantea</i>	木本	グミ	觀賞	觀賞				○	黄色	赤色	
トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>	シダ類	トクサ						○	-	-	
ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	草本双子葉	キク						○	白色	なし	
ムカシヨモギ属の一種	<i>Erigeron</i> sp.	草本双子葉	キク						○	なし	なし	
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	木本	バラ	食用	食用			○		白色	橙色	
ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	草本双子葉	キク					○		なし	なし	
ヤツア	<i>Fatsia japonica</i>	木本	ウコギ						○	白色	黒紫色	本文3.1.4を参照
マルキンカン	<i>Fortunella japonica</i>	木本	ミカン						○	白色	黄色	
チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium purpureum</i>	草本双子葉	キク						○	なし	なし	
ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>	草本双子葉	キク						○	なし	なし	
トクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	草本双子葉	トクダミ					○		白色	なし	
アジサイ (園芸品種)	<i>Hydrangea</i> cv.	木本	ユキノシタ						○	青紫色	なし	
チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	草本双子葉	セリ					○		黄緑色	黄緑色	
サツマイモ	<i>Ipomoea batatas</i>	草本双子葉	ヒルガオ	食用					○	なし	なし	
シャガ	<i>Iris japonica</i>	草本単子葉	アヤメ						○	白色	なし	
ヤマアキ	<i>Kerria japonica</i>	木本	バラ	觀賞	觀賞				○	黄色	黄緑色	
ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	草本双子葉	シソ					○		なし	なし	
シンテツポウユリ	<i>Lilium</i> × <i>formolongi</i>	草本単子葉	ユリ					○		白色	黄緑色	

コヤブラン	<i>Liriope spicata</i>	草本双子葉	ユリ															白色	青紫色
トマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	草本双子葉	ナス	食用														黄色	赤色
モクレン	<i>Magnolia liliflora</i>	木本	モクレン	觀賞				觀賞										なし	なし
トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	草本双子葉	ゴマノハグサ															紫色	なし
ニガウリ	<i>Momordica charantia</i>	草本双子葉	ウリ															なし	なし
ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	木本	メギ	縁起物				縁起物										白色	赤色
スイセン属の一種	<i>Narcissus</i> sp.	草本双子葉	ヒガンバナ															なし	なし
ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>	草本双子葉	ユリ	觀賞				觀賞										白色	青紫色
カタバミ属の一種	<i>Oxalis</i> sp.	草本双子葉	カタバミ															黄色	黄緑色
ムラサキカタバミ	<i>Oxalis martiana</i>	草本双子葉	カタバミ															なし	なし
ヘクソクズラ	<i>Paederia scandens</i>	草本双子葉	アカネ															なし	なし
ソタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	木本	ブドウ															黄緑色	なし
アオジソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i> forma <i>viridis</i>	草本双子葉	シソ					食用										なし	なし
フキ	<i>Petasites japonicus</i>	草本双子葉	キク															なし	なし
アサガオ	<i>Pharbitis nil</i>	草本双子葉	ヒルガオ	觀賞				觀賞										なし	なし
アサガオ (鉢植え)	<i>Pharbitis nil</i>	草本双子葉	ヒルガオ															なし	なし
ナガエコミカソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>	草本双子葉	トウダイグサ															なし	なし
センナリホオズキ	<i>Physalis angulata</i>	草本双子葉	ナス					觀賞										黄色	黄緑色
オオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	草本双子葉	オオハコ															白色	茶色
ネザサ	<i>Pleioblastus argenteostriatus</i> forma <i>glaber</i>	竹・笹類	タケ					行事										なし	なし
メダケ属の一種	<i>Pleioblastus</i> sp.	竹・笹類	タケ															なし	なし
ヤブミヨウガ	<i>Pollia japonica</i>	草本双子葉	ツユクサ															白色	青紫色
サクラ属の一種	<i>Prunus</i> sp.	木本	バラ															なし	なし
イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	シダ類	イノモトソウ															-	-
ザクロ	<i>Punica granatum</i>	木本	ザクロ	觀賞				觀賞										赤色	赤色
ツツジ属の一種	<i>Rhododendron</i> sp.	木本	ツツジ	觀賞				觀賞										赤紫色	なし
オモト	<i>Rohdea japonica</i>	草本双子葉	ユリ															桃色	なし
イスガラシ	<i>Rorippa indica</i>	草本双子葉	アブラナ															黄色	なし
バラ (園芸品種)	<i>Rosa</i> cv.	木本	バラ															桃色	なし
ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	草本双子葉	ユキノシタ															白色	なし
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	草本双子葉	ナデシコ															なし	なし

サルビア (園芸品種)	<i>Salvia</i> cv.	草本双子葉	シソ					觀賞										青紫色	なし	なし	
ニワトコ	<i>Sambucus sieboldiana</i>	木本	スイカズラ				○												なし	なし	
カニバサボテン 属の一種	<i>Schltombergera</i> sp.	サボテン類	サボテン																なし	なし	
タツナミソウ (園芸品種)	<i>Scutellaria</i> cv.	草本双子葉	シソ																白色	黄緑色	
タツナミソウ属の一種	<i>Scutellaria</i> sp.	草本双子葉	シソ				○												紫色	黄緑色	
メキシココマネンゲサ	<i>Scaum mexicanum</i>	草本双子葉	ペンケイソウ					觀賞											黄色	なし	○
ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	草本双子葉	キク				○												黄色	なし	
ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	草本双子葉	ナス				○												なし	なし	
イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	草本双子葉	ナス				○												白色	なし	
アキノキノソウ属の一種	<i>Solidago</i> sp.	草本双子葉	キク					觀賞											なし	なし	○
ホウレンソウ	<i>Spinacia oleracea</i>	草本双子葉	アカザ					食用			○								なし	なし	
ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	草本単子葉	ラン				○	觀賞											桃色	なし	
ハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	草本双子葉	ナアジコ				○												なし	なし	
タンポポ属の一種	<i>Taraxacum</i> sp.	草本双子葉	キク					遊び			○								黄色	赤褐色	
シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	木本	ヤシ																なし	なし	本文3.1.5を参照
カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	草本双子葉	ウリ					薬用			○								白色	赤色	
トリテイレア属の一種	<i>Triteleia</i> sp.	草本単子葉	ユリ					觀賞											紫色	なし	○
チューリップ (園芸品種)	<i>Tulipa</i> cv.	草本単子葉	ユリ					觀賞											なし	なし	○
オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	草本双子葉	キク				○												黄色	なし	
フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	木本	マメ					觀賞											紫色	なし	○ 本文3.1.6を参照
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	木本	ミカン					食用			○								なし	なし	○
ミョウガ	<i>Zingiber officinale</i>	草本単子葉	ショウガ					食用											なし	なし	

学名は主に寺崎・奥山 (1977) による。  
 1) サボテン類以外は仁田坂 (2006) による。タケ科植物は、「竹・笹類」と表記する。  
 2) 主な利用方法を表記する。網掛けのみは、生育は確認されているが利用がなされていないことを示す。  
 3) A宅の庭に自生している植物で、栽培され区別される。本来、コンニャクは栽培植物であるが、A宅の株はカラスが運んできた芋に由来するので、野生種に含めている。  
 4) 磯野 (2007) に記載されている栽培植物のうち、奈良時代から江戸時代末期に渡来した栽培植物を示す。  
 5) 塚本 (1984) に記載されている栽培植物のうち、明治以降に渡来した栽培植物を示す。  
 6) A宅で見られた草本植物および木本植物の花の色を示すが、A夫妻および筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類については、花を形成しないため、「-」と表記する。  
 7) A宅で見られた草本植物および木本植物の果実の色を示すが、A夫妻および筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類については、果実を形成しないため、「-」と表記する。  
 出所：高野 (2020) に一部加筆修正して作成。

表2 B宅の庭における植物利用

標準和名	学名	大分類 <sup>1)</sup>	科	植物の存在期間と植物利用 <sup>2)</sup>			野生植物 <sup>3)</sup>		栽培植物		花色 <sup>6)</sup>	果実 <sup>7)</sup>	備考
				1951年-1970年	1971年-1983年	1994年-2019年	在来種	外来種	明治以前 <sup>4)</sup>	明治以降 <sup>5)</sup>			
アマリリス	<i>Amaryllis</i> cv.	草本単子葉	ユリ	観賞		観賞			○		赤色	なし	
ノブドウ属の一種 (園芸品種)	<i>Ampelopsis</i> cv.	木本	ブドウ	観賞		観賞				○	なし	なし	
ミズヒキ	<i>Antennaria filiforme</i>	草本双子葉	タデ	観賞	観賞	観賞	○				赤色 白色	赤色	本文3.2.1を参照
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	木本	ヤブコウジ				○				なし	赤色	
ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>	草本単子葉	ユリ						○		なし	なし	
ツバキ (園芸品種)	<i>Camellia</i> sp.	木本	ツバキ	観賞	観賞	観賞			○		桃色等	なし	本文3.2.2を参照
エビネ属の一種	<i>Calanthe</i> sp.	草本単子葉	ラン	観賞	観賞	観賞	○				なし	なし	
ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i>	草本単子葉	カヤツリグサ				○				なし	茶色	
エノキ属の一種	<i>Celtis</i> sp.	木本	ニレ				○				なし	なし	
ボケ (園芸品種)	<i>Chaenomeles</i> cv.	木本	バラ	観賞	観賞	観賞			○		桃色	黄緑色	本文3.2.3を参照
センリョウ	<i>Choranthus glaber</i>	木本	センリョウ			観賞	○				なし	赤色	
コギク	<i>Chrysanthemum</i> cv.	草本双子葉	キク			観賞				○	なし	なし	
ユズ	<i>Citrus junos</i>	木本	ミカン			薬用			○		白色	黄色	
クンシラン	<i>Clivia miniata</i>	草本単子葉	ヒガンバナ	観賞		観賞				○	なし	なし	
オオアレチノギク	<i>Conyza somatrensis</i>	草本双子葉	キク					○			なし	なし	
ハナミズキ	<i>Cornus florida</i>	木本	ミズキ			記念樹				○	白色	なし	
カネノナルキ	<i>Crassula portulaca</i>	草本双子葉	ペンケイソウ			観賞				○	薄桃色	なし	
オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	シダ類	オシダ								-	-	
シクラメン (園芸品種)	<i>Cyclamen</i> cv.	草本双子葉	サクラソウ			観賞				○	赤色	なし	
シンビジウム	<i>Cymbidium</i> cv.	草本単子葉	ラン			観賞				○	なし	なし	
ジンチヨウゲ	<i>Daphne odora</i>	木本	ジンチヨウゲ	観賞	観賞	観賞			○		淡紫色	なし	本文3.2.4を参照
パニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	シダ類	オシダ				○				-	-	
ハビイチゴ属の一種	<i>Duchesnea</i> sp.	草本双子葉	バラ			観賞	○				なし	なし	
トウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>	木本	ツツジ			観賞	○				白色	なし	
トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>	シダ類	トクサ	観賞	観賞	観賞	○				-	-	

ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	草本双子葉	キク														白色	なし		
ムカシヨモギ属の一種	<i>Erigeron</i> sp.	草本双子葉	キク															なし	なし	
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	木本	バラ															なし	なし	
トネリコ属の一種	<i>Fraxinus</i> sp.	木本	モクセイ															なし	なし	○
クちなシ	<i>Gardenia jasminoides</i>	木本	アカネ	観賞	観賞													白色	橙色	
アジサイ (園芸品種)	<i>Hydrangea</i> cv.	木本	ユキノシタ															青紫色	なし	○
キシヨウブ	<i>Iris pseudoacorus</i>	草本単子葉	アヤメ	観賞	観賞													黄色	なし	○
モチノキ属の一種	<i>Ilex</i> sp.1	木本	モチノキ															なし	なし	○
モチノキ属の一種	<i>Ilex</i> sp.2	木本	モチノキ															なし	なし	○
コバノランタナ	<i>Lantana montevidensis</i>	木本	クマツツラ															なし	なし	○
ユリ (園芸品種)	<i>Lilium</i> cv.	草本単子葉	ユリ															なし	なし	○
ロビビア属の一種	<i>Lobelia</i> sp.	サボテン類	サボテン	観賞	観賞													なし	なし	○
ロウバイ	<i>Mercatia praecox</i>	木本	ロウバイ	観賞	観賞													黄色	黄緑色	○
オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>	草本双子葉	オシロイバナ	観賞	観賞													赤色	なし	○
マルバリー	<i>Morus</i> sp.	木本	クワ															なし	なし	○
ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	木本	メギ	縁起物	縁起物													白色	赤色	○
ナチミザサ属の一種	<i>Oplismenus</i> sp.	草本単子葉	イネ															なし	なし	○
キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	木本	モクセイ	記念樹														黄色	なし	○
カタハミ属の一種	<i>Oxalis</i> sp.	草本双子葉	カタハミ															なし	なし	○
ムラサキカタハミ	<i>Oxalis martiana</i>	草本双子葉	カタハミ	遊び														桃色	なし	○
シヤコバサボテン (園芸品種)	<i>Schlumbergera</i> cv.	サボテン類	サボテン															なし	なし	○
ゼラニウム	<i>Pelargonium</i> cv.	草本双子葉	フウロソウ															なし	なし	○
イスタテ	<i>Pesticaria longiseta</i>	草本双子葉	タテ	遊び														桃色	茶色	○
アサガオ (鉢植え)	<i>Pharbitis nil</i>	草本双子葉	ヒルガオ	学習/観賞	観賞													なし	なし	○
ネザサ	<i>Pleioblastus argenteostriatus</i> forma <i>glaber</i>	竹・笹類	タケ															なし	なし	○
メダケ属の一種	<i>Pleioblastus</i> sp.	竹・笹類	タケ	行事	行事													なし	なし	○
ウメ (シダレウメ)	<i>Prunus mume</i>	木本	バラ	観賞	観賞													白色	黄緑色	○
イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	シダ類	イノモトソウ															-	-	○
キリシマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i>	木本	ツツジ	観賞	観賞													赤色	なし	○
オモト	<i>Rohdea japonica</i>	草本単子葉	ユリ															桃色	なし	○
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	草本双子葉	ナデシコ															なし	なし	○



サルビア (園芸品種)	<i>Salvia</i> cv.	草本双子葉	シソ							なし	なし	
サルビア ミクロフィラ	<i>Salvia microphylla</i>	草本双子葉	シソ							なし	赤色・白色	
ヤドリフカノキ	<i>Shefflera arboricola</i>	木本	ウコギ							なし	なし	
コアマリ	<i>Spiraea cantoniensis</i>	木本	バラ							なし	なし	
ライラック (白花)	<i>Syringa vulgaris</i>	木本	モクセイ	観賞						なし	白色	本文3.2.10を参照
ヒメシダ属	<i>Thelypteris</i> sp.	シダ類	ヒメシダ							-	-	
テイカカズラ属 (園芸品種)	<i>Trachelospermum</i> cv.	木本	キョウチクトウ							なし	なし	
シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	木本	ヤシ							なし	淡黄色	
パンジー	<i>Viola</i> cv.	草本双子葉	スマレ							なし	黄色	
スマレ	<i>Viola mandshurica</i>	草本双子葉	スマレ							なし	紫色	
サンシヨウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	木本	ミカン							なし	なし	
ミヨウガ	<i>Zingiber officinale</i>	草本単子葉	ショウガ							なし	なし	

学名は主に寺崎・奥山 (1977) による。

- 1) サボテン類以外は仁田坂 (2009) による。タケ科植物は、「竹・笹類」と表記する。
- 2) 主な利用方法を表記する。網掛けのみは、生育は確認されているが利用がなされていないことを示す。
- 3) B宅の庭に自生している植物で、植栽されている種類とは区別される。
- 4) 磯野 (2007) に記載されている栽培植物のうち、奈良時代から江戸時代末期に渡来した植物。
- 5) 塚本 (1984) に記載されている栽培植物のうち、明治以降に渡来した栽培植物。
- 6) B宅で見られた草本植物および木本植物の花の色を示すが、Bおよび筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類は、花を形成しないため、「-」と表記する。
- 7) B宅で見られた草本植物および木本植物の果実の色を示すが、Bおよび筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類は、果実を形成しないため、「-」と表記する。

出所: Bのインタビュー調査の結果をもとに筆者作成。

表3 C宅の庭における植物利用

標準和名	学名	大分類 <sup>1)</sup>	科	植物の存在期間と植物利用 <sup>2)</sup>			野生植物 <sup>3)</sup>		栽培植物		花色 <sup>6)</sup>	果実 <sup>7)</sup>	備考
				1943年-1972年	1973年-1976年	1977年-2019年	在来種	外来種	明治以前 <sup>4)</sup>	明治以降 <sup>5)</sup>			
カエデ属の一種(紅葉時、葉が赤色になる系統)	<i>Acer</i> sp.1	木本	カエデ	観賞	観賞				○		なし	なし	
カエデ属の一種(紅葉しない系統)	<i>Acer</i> sp.2	木本	カエデ	観賞	観賞				○		なし	なし	
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	木本	ヤブコウジ				○				なし	赤色	
クサスギカズラ属の一種	<i>Asparagus</i> sp.	草本単子葉	ユリ						○		なし	なし	
イヌワラビ	<i>Althium niponicum</i>	シダ類	ヒメシダ				○				-	-	
カジノキ属の一種	<i>Broussonetia</i> sp.	木本	クワ				○				なし	なし	
タネツケバナ属の一種	<i>Cardamine</i> sp.	草本双子葉	アブラナ				○			○	なし	なし	
センリョウ	<i>Choranthus glaber</i>	木本	センリョウ				○				なし	赤色	
オリヅルラン	<i>Chlorophytum comosum</i>	草本単子葉	ユリ						○		なし	なし	
ナガバヤブソテツ	<i>Cyrtomium denexicapulae</i>	シダ類	オシダ				○				なし	なし	
コメヒシバ	<i>Digitaria radicata</i>	草本単子葉	ユリ				○				なし	なし	
アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>	草本単子葉	ユリ				○				なし	なし	
ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	草本単子葉	ヤマノイモ				○				なし	なし	
ムカシヨモギ属の一種	<i>Erigeron</i> sp.	草本双子葉	キク						○		なし	なし	
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	木本	バラ				○				なし	なし	本文3.3.1を参照
ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	木本	ウコギ	観賞	観賞	観賞	○				なし	なし	
ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>	草本双子葉	キク						○		白色	なし	
ドクダミ	<i>Honathenia cordata</i>	草本双子葉	ドクダミ				○				なし	なし	
チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	草本双子葉	セリ				○				なし	なし	
アジサイ(園芸品種)	<i>Hydrangea</i> cv.	木本	ユキノシタ		観賞				○		なし	なし	
シャガ	<i>Iris japonica</i>	草本単子葉	アヤメ				○				なし	なし	
サルズベリ	<i>Lagerstremia indica</i>	木本	ミソハギ	観賞	観賞				○		桃色	なし	本文3.3.2を参照
ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	草本双子葉	シソ				○				なし	なし	
ヤブラン(蹠入り)	<i>Liriope lauratae</i>	草本単子葉	ユリ						○		なし	なし	
キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	木本	モクセイ	観賞	観賞	観賞			○		橙色	なし	本文3.3.3を参照

ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	草本単子葉	ユリ						○				なし	なし
ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>	草本単子葉	ユリ						○				なし	なし
チヂミザサ属の一種	<i>Optismenus</i> sp.	草本単子葉	イネ						○				桃色	なし
ムラサキカタバミ	<i>Oxalis martiana</i>	草本双子葉	カタバミ						○				なし	なし
イスタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	草本双子葉	タデ						○				桃色	なし
ヨウシユヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>	草本双子葉	ヤマゴボウ						○				不明	なし
コケミズ	<i>Pilea peploides</i>	草本双子葉	イラクサ						○				白色	なし
トベラ	<i>Ptilosporum tobira</i>	木本	トベラ						○				なし	なし
オオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	草本双子葉	オオハコ						○				白色	なし
メダケ属の一種	<i>Pleiochloa</i> sp.	竹・笹類	タケ						○				なし	なし
イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	シダ類	イノモトソウ						○				-	-
ザクロ	<i>Punica granatum</i>	木本	ザクロ			食用			○				なし	赤色
キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i>	草本単子葉	ユリ				觀賞		○				なし	なし
サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>	木本	ツツジ				觀賞						なし	なし
ツツジ属の一種	<i>Rhododendron</i> sp.	木本	ツツジ				觀賞		○				なし	なし
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	草本双子葉	ナゲシコ						○				なし	なし
シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i>	木本	ヤナギ			觀賞							なし	なし
ユキノシタ	<i>Stachyfraga stolonifera</i>	草本双子葉	ユキノシタ						○				なし	なし
タツナミソウ属の一種	<i>Scutellaria</i> sp.	草本双子葉	シソ						○				黄色	なし
ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	草本双子葉	キク						○				なし	なし
イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	草本双子葉	ナス						○				なし	なし
ヒメシダ属	<i>Thelypteris</i> sp.	シダ類	ヒメシダ						○				-	-
オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	草本双子葉	キク						○				なし	なし
タマスダレ	<i>Zephyranthes candida</i>	草本単子葉	ユリ				觀賞		○				なし	なし

学名は主に寺崎・奥山 (1977) による。

- 1) サボテン類とササ・タケ類以外は仁田坂 (2009) による。タケ科植物は、「竹・笹類」と表記する。
- 2) 主な利用方法を表記する。網掛けのみは、生育は確認されているが利用がなされていないことを示す。
- 3) C宅の庭に自生している植物で、植栽されている種類とは区別される。
- 4) 磯野 (2007) に記載されている栽培植物のうち、奈良時代から江戸時代末期に渡来した植物。
- 5) 塚本 (1984) に記載されている栽培植物のうち、明治以降に渡来した栽培植物。
- 6) C宅で見られた草本植物および木本植物の花の色を示すが、C夫妻および筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類は、花を形成しないため、「-」と表記する。
- 7) C宅で見られた草本植物および木本植物の果実の色を示すが、C夫妻および筆者が現地地で未確認の場合は「なし」と表記する。シダ類は、果実を形成しないため、「-」と表記する。

出所: C夫妻のインタビュー調査の結果をもとに筆者作成。